

火の見櫓

(題字は西辻八尾市長)

発行所

八尾市消防団

発行責任者

八尾市消防団長

松村芳治

八尾市高美町5-7

TEL(0729)92-0119

FAX(0729)92-7722

消太郎
今年も頑張るぞ



新春討談

「21世紀に向けての消防団と常備消防」

八尾市消防団長 木村 政信
八尾市消防団副団長 松村 芳治
司会 広報部 久田 弘義

司会 新年明けましておめでとございます。

ご多忙中のところ新年早々に時間を頂まして有りありがとうございます。さて、大きなメインテーマを掲げていますが、本日はもう少し絞り込んで「消防団と常備消防の位置付け」と言うサブテーマに付いて、話し合ってくださいと思います。

まず、柔らかいところから趣味、スポーツ等に付いて、その後本題に入ってくださいのようですが?

消防団 投げ釣りのクラブ歴が二十年をこえます。全国組織のルールの中で特定魚種の終身累積の競争をしています。ここ数年は休眠状態です。

団長 相変わらずゴルフをやっています。更に毎日歩くことで健康を維持しています。

司会 「目的を持って体を動かす」大事な事だと思いませんか。多くの団員・消防職が

日々行っている訓練に共通し、理論だけでなく体で覚えることで、正確かつ機敏な行動が出来るのですからね。

消防団 「箸を使うのも訓練から」と言われます。正確な訓練こそ全ての基礎を成します。

消防団員よ誇りを持って!

団長 消防団活動は、多くのボランティア活動の中でも、団員でしかできない特殊ボランティアであります。大切なものを守ることの認識を深め、誇りを持つて行動して頂きたい。

消防団 消防団は法定組織団体で、一般的に使われる意味での任意性のあるボランティアとは異なります。八尾市消防団の場合は、使命感も活動性も高く、限りなくプロに近いものと思っています。

団長 消防団活動に必要な不可欠なものがあります。それは最高の理解者である家族の協力で、小地域社会と

しての家族を大切にし、家族・近隣・町会・地域社会と範囲を広めその地域に密着した防災活動を推進したいと思っています。

消防団と常備消防の両輪の如く!

消防団 消防団は常備消防と地域住民の間にあつて、将来的には予防業務や福祉分野などの一部も担って、常備との連携を深め、車の両輪の如く同一の目的に向かつて前進するものと考えています。

団長 これからの消防団は、地域住民との間で初期消火訓練・救急救命訓練等を通じ、地域と一体化すべきで更には、将来の団員確保をも考えて消防団の魅力

作りを頑張ってもらいたいですね。

消防団 消防団とその地域の関係では、ひと言で言いますと、「地域の皆様の信頼を得ることだと思えます。消防団として各種行事への参加、町会・婦人会・青年団・子供会等との行事共催、そして消防団の訓練等を通じて、普段から様々な防災体制ネットを作っておく事が大切です。

司会 なるほどお二人とも地域に密着した活動による防災技術の向上と共に、住民への啓発活動も大事であると言っていますね。

ここで「団・常備の位置付け」について平常時、災害時に分けて整理して頂きますと?

消防長 消防本所行政としては、平常時から消防団が地域の防災力として結実するように前進的支援を続けるものであり、災害発生時は、地域の全体を把握したうえでの情報伝達や活動方針を示して、本部・団相互が一体となって消防能力を最大限に発揮することだと思えます。

消防長 普段は、地域社会の育成と自己宣伝を活発に行い、いざという時は地域性を生かし、団員しか出来ない分野での活動をすべきであると考えます。

司会 いろいろなご意見有りありがとうございます。地域社会での活動を通じ、住民の信頼を掴みながら消防活動を効果的にアピールし、深い理解を得なければならぬと考えます。「火の見櫓」も積極的なPR活動を推進し、地元で溶け込む消防団を広く紹介したいと考えます。

本日は大変有意義なお話を有りありがとうございました。

見学に来られた方々にお聞きしました。式場近くの吉見さん(緑ヶ丘在住)は、「孫の園児が参加するの、身内七人で来ました。」

市長表彰 辻村良弘

第三分団 班長 廣岡孝

第四分団 内山芳彦

第五分団 中村浩之

第六分団 柏本幸男

第七分団 森山敏

第八分団 坂上節男

第九分団 松上均

個人表彰者 松本文隆

分団表彰者 石井幹也

新春を飾る消防出初式

第三分団 泉良幸

今年も恒例の出初式が一月七日(木)に八尾市立八尾中学校に於て参加人員四百三名(消防職員百五十五名、消防団員二百四十八名参加車両三十四台消防本部十二台、消防団二十台特別参加大阪消防局航空隊、幼年消防クラブの協力を得て盛大にそして力強く、挙行されました。

大阪消防局航空隊のヘリコプター祝賀飛行による花束・メッセージの投下で始まり徒歩部隊・自動車部隊の分列行進、市長式辞、表彰、議長祝辞、答辞、署・団の一斉放水訓練と続きました。

一斉放水訓練では特にかわいい園児達がミニ消防車「消太君」で放水している姿が、注目的になっていました。

見学に来られた方々にお聞きしました。式場近くの吉見さん(緑ヶ丘在住)は、「孫の園児が参加するの、身内七人で来ました。」

初めて出初式を観望しましたが心強く思いました。「島田さん(西山本在住)は、三人のお子さんにせがまれて、「『市政だより』で知り来ました。子供が消防車・救急車が好きで好きで」とのことでした。

市民の方々が消防に、より一層深く関心を持って頂く事が我々の目的の一步です。式に際して表彰された方々を祝して紹介します。



プロフィール

木村消防長

住 所 八尾市跡部北の町
生年月日 昭和15年10月3日
身長 166cm 体重 52kg 血液型 O型
家族構成 妻・子供2人(2男)
経 歴 等 岡山県出身・4年間民間会社勤務を経験
昭和38年消防士拝命以後、総務課長・署長等を歴任、平成9年4月消防長就任

松村団長

住 所 八尾市神宮寺
生年月日 昭和8年12月13日
身長 180cm 体重 66kg 血液型 AB型
家族構成 妻・子供3人(2男・1女)
経 歴 等 松村ニット(株)・松村物流(株)の会社経営
と各種公職を歴任、昭和36年消防団員拝命、副分団長・分団長等歴任後退団、平成10年4月団長就任



本部分団	黒川博昭
第一分団	緒方靖司
第二分団	橋本修
第三分団	川合清隆
第四分団	岡田真一
第五分団	平岡元司
第六分団	山本雅英
第七分団	田中孝昭
第八分団	上野正己
第九分団	清水裕二

歳末警戒あれこれ

今回の季節特集記事として、歳末警戒を取り上げました。

団としての警戒拠点は市内二十一ヶ所有り各八分団・各分隊独自の警戒活動を実施しました。

まず日程を紹介しますと、十二月二十九日・三十日両日は全分団一斉に行われ、二十八日にも行った分団は約七割、三十一日にも行った分団は約二割です。四日間連続して夜警された方々は、本当にご苦労さまでした。

地域住民の方々や私達が、年の瀬を無事過ごし、新たな年を迎える事が出来ますようにと願いながら、日夜警戒をしています。

ここで今回の歳末警戒の中で特徴的な分団・分隊を紹介しましょう。Y(ワイ)

本部分団

毎年暮れの夜警が近づくといよいよ今年も押し迫ったと実感する。夜警の四日間には木田分団長お手製の関東煮が訪問者に振る舞われます。二十九日は八尾市の幹部や正・副団長の陣中見舞を受け緊張しました。深夜三時までの警戒は正直きついものがある。

一転三十日は入団予定者の訪問があり、今年も少数分団ながら二人も迎える事が出来る最も嬉しい日であった。

今回の夜警ではある試みを行った。それは、パトロール広報においてのテープの声を従来の大人の声から子供の声にしようとする案を実行し

たことであった。団員の子供の声を吹き込んだいわゆる手作りテープという訳だ。四日間地元を流した反響は？気になりつつも早く知りたいところです。永年活躍して頂いた谷埜部長はこの春おしまれつつ退団することになりましたが、「愛娘の声」は本部分団に残り続ける事になりました。

第一分団

植野

二十八日から三十日の三日間、夜七時から深夜零時迄の間、屯所を拠点として管内を全員で巡回します。二十八日は消防車で防災を呼びかけ、他の二日間は拍子木を使って徒歩で回ります。二十九日の警戒中に火災指令を受け、直ちに全員が出動したため小火ですんでよかったです。これから竹口登分団長以下全員が団結し頑張ります。赤澤

第四分団

十二月に入ってから各日ごとに、広報活動を行っております。



また、二十九日、三十日において地域の青年団・子供会・自治会と連携を取りながら、パトロールに、あたっておられます。その中でも特に南木の本青年団の女性団員はハンドマイクを片手にかわいい声で火災予防を呼び掛けてくれました。年末の慌ただしい時、地域の方々の心を和らげてくれた事でしょう。

今後、地域に根ざした分団として地道に活動して行きたいと思えます。川北

第五分団

二十九日・三十日に行い、初めてのころみとして、二十九日に中田旧子供会を迎えて、消防活動・器具等の見学会を開きました。

その結果、子供会より以下の感想文を頂きました。

「消防車の中は、普通の車と違ってスピーカーやサイレンを鳴らすボタンがある事を説明して頂きました。また、消火の場合、なぜ銀色の服を着るのですか?と尋ねましたら、火事の時に、火災や熱から身を守るためだということを教えて頂きました。そして、災害救助道具箱の中や、消防自動車のいろいろな作業道具の説明をして頂きました。身近にふれてみたり、消防団の方とお話ができて、勉強になって良かったと思います。」

第七分団

西尾

大窪地区で、恒例の子供会(六年生)と消防団との合同歳末警戒が行われました。「マッチ一本火事のもとなど」全員の大きな声で拍子木と共に歳末の夜に響き渡りました。その後、齋当滋分団長が



団活動の説明や火災の恐ろしさ等を話され、将来「消防団員をやってみたいですか?」の問い掛けに対し、数人の子供達が手を挙げて「やらせてみたい」と答えました。それを聞き、分団長以下全員が「消防団員をやってみて良かった」と嬉しく思いました。子供達も小学校最後の思い出の一つとして心に残してくれたと思えます。他の分団でも一度試されてみてはいかがでしょう。

第八分団

植田(竹)

四ヶ所の屯所及び隣接する集会所において二十五日頃より一部の団員が待機し、二十九日、三十日は全員で各屯所につめていきます。この歳末警戒は町会の要請により当然のことながら消防団が警戒、広報活動をするという形をとっています。その為、町会長はじめ地域の皆さまが次々に集まって来られ、一年をふり返ったり、最近の出来ごと等、色々話題はつきることにはありません。この歳末警戒という重要な行事が地域の皆様方と消防団とのつながりの輪をひろめ火事の少ない町になれば幸いです。

第八分団

植田(重)

昨年十一月十日(火)秋晴れの中、柏原市の「亀の瀬地すべり地区」の視察に参加致しました。

地滑り対策に学ぶ

恩智川水防視察研修結果

副団長 川田 政 宣

の水没、また閉塞力所の決壊で大阪平野は鉄砲水に襲われ、八尾市を含めた旧大和川流域は特に被害が大きいとされています。

地滑りのメカニズムは、地表の雨水が地下に浸透し、地層の柔らかい部分と固い部分を流れ境界で粘土化した土や水が潤滑油の役割をはたし、上部の地層を滑らせることにあるそうです。

そのような災害の未然防止のため建設省直轄によって実施されている主な施策をここに紹介します。

工事は地滑りが起こり難い環境を作る抑制工と地滑りそのものを止める抑止工とに分類され、ここではそれぞれ種々の工法が行われています。

抑制工の主なものは、地表の雨水を植樹や芝生により地下への浸透を防ぐとともに水路を整備し、早期に雨水を処理する「地表水排除工」、地下水を地下の巨大井戸に横ボーリングに



よって集水トンネルで排水する「地下水排除工」又、地表の土塊を大規模に除去し滑りの力を軽減する「排土工」等があります。

また、抑止工では釘の様に鋼管の杭を滑り面の下部まで打ち込む「鋼管杭工」と直径六、五メートル、長さ百メートルの鉄筋コンクリート杭を縦トンネルによつて設置する深礎工などが主なものです。

いずれの工事も大規模かつ長期にわたり今後も続けられ、同時に地滑りの兆候、発生に備えて機械的に厳重な監視体制がとられています。

防災に携わる者として今回の研修の大きな成果は、工法を見聞することにより、その原因、発生メカニズムを学んだことにあると思えます。

種々の災害に出場する消防団員にとって、その災害の実態を把握しての防ぎよにあたる事が基本であり、特に二次災害を防止するうえで重要なことと考えます。そのためには平素、あらゆる機会をとらえて研鑽し自己の危険回避能力を高めることが必要です。

自分の身を守れない者は、当然他人の生命・身体・財産は守れないことを念頭におき、私を含め八尾市消防団は、真の災害に強い団員として、これからも頑張る所存です。

特集 第二分団

盛年分隊頑張る
かやふり

「萱振の歴史と第二分団」

第二分団 広報部員 橋本 均 修
第二分団 広報部員 川端 均

八尾市の北部にある第二分団の本拠地「萱振」の由来と地域の消防団活動について紹介したいと思います。
萱振と言う地名は、たいそう珍しいそうで全国各地に「萱」のつく地名は「萱野」「萱場」を始め五十万所程あるそうですが、「萱振」と言う地名は全国でもわが町一カ所だけだそうです。

「萱振」と言う地名の由来は、天照大神の御弟の須佐之男命が大昔に萱の舟に乗って此の地に来られ、お宮を造られました。
その宮の前で萱で作った大松明を振り、お奉りしたところ、周辺の土地が豊かになり、村人が大層喜んだことから、それ以来「萱振」と名付けられました。

近くの加津良神社は、その須佐之男命が祭神です。「倭漢三才図」の「河内鑑名所記」の六章には、「萱振牛頭天王 昔より祭りのときハ神前にて氏子共松明ヲふり神をすすしむる故に萱振といふと也」と記述されています。

同書には当時萱振の地に大寺院のあったことと併せて、之吉、西教、友茂など



と言った著名な俳人がいたことが記されています。

之吉の句で「土もちてすくう燕や御影堂」又、詠み人知らずで「鶯や声も学所の窓の梅」等からも当時の優雅な寺院の姿がうかがえ、これらの句はいずれも現在でいう恵光寺を詠んだものといわれています。

ところでこの萱振の地が我が国最初の「職」発祥の地であることは、意外と知られていないようです。

「南方紀伝」という書物によると室町時代に時の將軍足利義政の命に背いた畠山正長が、同じ一族である畠山義就と、この萱振の地で戦いました。同族同士の戦いであり、旗の色も同じで敵味方の区別がつかず同士

討ちが多発し、困った政長は赤と白の職を作り、勝者である赤い職を神社の祭礼に使用したのが由来とされています。

古い昔に萱振の地で考案された「ノボリ」が現在では日本全国で店頭や車の荷台で活躍している訳です。

この様な由緒ある町並や文化を災害から守ることは地元消防団の大きな使命と考え、一致団結して頑張っています。

しかし私達第二分団の守備範囲は萱振だけで無く、今やビルの立ち並ぶ近鉄八尾駅周辺の繁華街から西部の工場地帯、田園風景の残る旧村、狭隘な住宅密集地等、多種多様で広範囲な地域をわずか十一名の団員で守っています。

団員の多くは、団員歴？十年という強者揃いで、八尾市十個分団の中でも平均年齢が最高と聞いています。それでも近年、僅かながら若返りを図り「歴史ある町」と「活気ある新しい町」を「大ベテラン」と「若手」の名コンビで守りいつまでも地域の皆様から愛され、頼られる消防でありたいと思っています。

終わりに、本文作成において「加津良神社縁起」から一部抜粋させて頂きました。又、恵光寺若院本多至成氏の多大なるご協力を戴きましたことを紙面をもって感謝申し上げます。

(次号は第三分団)

分団いんふおめーしょん

第一分団

赤澤・緒方

小さい事からこつこつと

火事と喧嘩は江戸の花と言われた徳川時代から明治に至る300年の間に延焼距離2キロメートルに及ぶ大火は、約90回。火事の原因は、今も昔も変わりなく、放火・コンロ・タバコが上位を占めているそうです。分団の日常活動においても、街灯の無い裏通りや、ゴミの山積みなど地域に目を向け安全対策を行って行きたい。消火栓等消防水利の点検や付近の違法駐車指導など自分の身体を使って覚えることが多く、最近では蓋の周りを黄色で表示されており見つけ易く成りましたが、色も薄くなり判別しにくいものや歩道や道以外にあり分かり難い場所の消火栓や水利の位置を確認して行くことも大切だと感じました。「地域を大切に」は私達の心、全員団結し地域の防災に取り組みで行きたいと考えます。

第四分団

嶋野

私達も青年団だっちゃんーの！

各分団の地元でも青年団が活躍されている事と思いますが、第四分団にも沼・太田・木の本・南木の本の各青年団があります。その中の一つ南木の本青年団も団長を中心に地域行事に積極的に参加し活躍されています。中でもひときわ目を引くのが高校生を含む10名の女性団員です。正月の新年祭・どんど祭での甘酒の吹き出し、歳末警戒の呼びかけ等女性ならではの活躍です。先日そんな彼女らに「消防団をどのようにおもいますか？」との質問に「とっても大変な活動ですが、皆さんカッコいいですネ」と現代っ子らしく答えてくれました。近い将来、男性団員は元よりこの中から女性消防団員も誕生するのではと心強く思いました。

第五分団

吉川

手づくりホース巻機作成

新入団員を迎え、8月24日午後2時より全員集合して清友幼稚園運動場で刑部4丁目の一部市民参加のもと、玉串川水利を使用し、放水訓練を行いました。また、器具関係では、奥田庄司班長に立派なホース巻機を製作していただきました。早速全員でテスト巻きをしたところ以前に比べ、初心者にもスムーズに又楽に作業ができるようになりました。

第六分団

辻野 (康)

村と消防団

多くの家々は、親の代からの団員経験者が多く、先輩達の話によると、消防資機材等も今とは雲泥の差があり、バッテリー上がりもよくあったそうです。当時は山火事が多く、「火事は東、車は西」(西への下り坂を利用してエンジンを掛けた)と言う有様で、一度失敗するととてつもなく「しんどい」思いをしたそうです。また山火事になるとすぐには帰れず、山裾の現場は、町会による炊出しのおにぎりや温かいお茶の配給があったが、山頂付近になると何もなくて大変「ひもじい」思いをしたとのこと。消防団活動は災害時とはとより、年間を通じ、いざというときのため教養訓練をつんでおかなければなりません。先日恩智地区及び南谷神宮寺地区で消防長を迎えて自治振興委員会主催の「防火・防災の集い」があり、防災・水害・地震等の講演を受けました。多くの人達が熱心に聞き入っている姿を見て、我々団員もより強い使命を感じずにはおれませんでした。

第七分団

清水

伝統を引き継ぐ大とんど

年中色々な行事が有り忙しい日々ですが、地域の人々と力を合わせて行う行事の中に玉祖神社(九カ村)において1月15日の小正月に行う大とんどが有ります。(山畑地区でも実施)一時中止の時期も有りましたが老人会・氏子・消防団員等の有志により復活しました。1月14日に有志が集まり宮山・柏・杉・雑木等を切り出してセイロ積みにして、周囲20m、高さ10m位の薪(タキギ)を積み上げます。翌朝、消防団員は4時に起床して山の草木や枯木等とどりの周辺に放水して延焼の防ぎよを行います。朝6時の点火



には神主の御祈禱を受け、御神火を戴き宮総代により、いよいよ点火します。全くの生木だけの木々はパチパチと言う号音と共に火柱は30mにも達し、その壮観さは近くで拝んだ人々にしか分からない勢いがあります。海拔150mの高台にあり、大阪一円から望めます。地域の人々が今まで神様の御礼、御守り、古い社(やしろ)等、個人で燃やせなかったものや子供達のお習字等心のこもった書き物など色々と持参されて、大変喜んでいただいております。

第八分団

植田 (重)

上尾分隊編

分団の中でも地域に密着した数多くの活動を行っています。毎年秋季祭礼で青年団を応援し、子供会には、出店(金魚すくい、綿菓子、ヨーヨー釣り、ポップコーン、当て物等)を用意し、子供達と賑やかな時間を過ごします。町会・婦人会とは、初期消火・救命救急訓練等を通じて全ての年齢層の人々とコミュニケーションを図っています。中でも町内でご不幸があった場合、町会役員と共に必ず手伝いをし、町会及び他団体の信頼も厚く、既に地域社会においてその地位を確立しているように思います。

第九分団

西口

市民スポーツ祭でのデモンストレーション

恒例の志紀地区市民スポーツ祭が、昨年も10月10日(祝)に絶好の秋晴れの下、市立志紀中学校において、盛大に開催されました。当日は各地区から市民多数が参加され、プログラム通り順次取り行われました。我第九分団においては毎年、場内警備係として参加すると共に、各分隊が持ち回りにより小型ポンプ操法のデモンストレーションを行い、一般市民の消防団への理解と協力を求めています。このような市民行事に溶け込んだ活動が、少しでも地域の火災予防につながることを願って毎年実施しています。



文化財を守る!

国民の財産である文化財を火災から守るため、関係者と消防署及び消防団との合同総合訓練が平成十一年一月二十五日(月)午前十時から約一時間にわたって実施された。第六分団も延焼阻止のため急な階段にホースを延長し放水を実施した。今回の訓練は、恩智中町四丁目の神宮寺感応院で「隣接する住居から火災が発生、住職は一一九番通報すると共に初期消火と寺内から重要物品を搬出、火災は、強風により観音堂及びびんに延焼する恐れ有り」との想定のもとに行われた。参加人員六十余名、参加車両五台の規模で実施され、訓練終了後、南消防署



長(の)講評を最後に無事終了した。

重要文化財は地元「宝」、火災に対する防衛技術の向上のみならず、地域住民の文化財愛護の意識を高揚を図れたことは意義深いと思う。 辻野(康)

火災 五年連続放火がトップ! 激増二万件突破!

「平成十年中統計」
火災件数 八十四件
(前年比二十二件減)

- 一位 放火 十四件
 - 二位 たばこ 十三件
 - 三位 コンロ等 五件
- 放火は家の周りを整理して燃えやすい物を置かない様に心がけて下さい。
救急件数 一万八十九件
(前年比五百八十四件増)

救急出場の中には、救急に該当しないものも、多数見受けられます。いざという時のために救急車の適正な利用をお願いします。
(消防本部)

めざせパーフェクト

消防団員ボーリング大会が昨年十一月十一日(水)に八尾ボウリング・アリーナにおいて開催されました。前日木枯らし一号が吹き、当日は今冬一番の寒さの中、会場内は外の寒さも吹き飛ばす程の熱戦がくり広げられました。ゲーム終了後に優勝の一言と、思っていました。が、コンピューターの故障で成績発表が出来ず、あの表彰式での盛り上がりもなく残念でした。次の大会では、個人戦の後に、各分団対抗戦なども加えると、直一層盛り上がるのではと考えます。出場者の皆様本当にお疲れさまでした。 主な結果については次のとおりです。

優勝	点数
ハイゲーム賞	三七二
第九分団	二〇七
準優勝	
第七分団	三五八
第三位	三五三
第六分団	坂本美英
第五分団	西尾一治
BB賞	
本部分団	谷埜賢一
	嶋野



元気ですか?

健康診断実施
消防団員健康診断が昨年十一月二十一日(土)消防本部で実施され、本年度は、二百四十八名の内、百五名が受診しました。

受診率は四二・三割で過去最高を記録した。異常なし(A判定)、僅かに異常があるが日常生活に差し支えなし(B判定)を加えて二二・八割で、これ以



杉田・桐山

防災とボランティアの日

阪神・淡路大震災の発生から四年の節目を迎えた一月十七日に、自主防災組織八尾第三地区住民参加による防災訓練が本町第二公園



で行われた。管轄区域である第二分団は、放水訓練及び車両展示で参加した。放水訓練では小型動力ポンプを公園内の貯水槽横に部署し、一線二口放水を実施した。地域住民は、初期消火訓練及び心肺蘇生・煙中体験・放水体験など、八カ所のコーナーを巡り、防災・消防について知識を吸収し、災害時におけるボランティア活動について認識を深めた。震災の教訓は、風化してはならず、この様に自主防災組織が出来、地域住民及び様々な組織・団体が協力することによって、災害時に大きな力になると思う。

橋本(修)

真剣勝負



第二十六回消防職員ポンプ操法訓練大会 昨年十一月五日(木)午前十時から本部にて一課・二課各三隊計六隊で行われました。私はこの大会を以前に二

回見学させてもらいましたが、以前と変わらぬのが、職員の真剣に一生懸命で在りながら落ち着いて、操法をされているところ、変わったのは、園児が授業の一環として見学されていたところ。園児の大きな声援が各隊の操法の始まりと終わりとに、送られていました。選手の方々そして二階でズブ濡れで審査されておられた方々本当にご苦労様でした。成績は次のとおりです。

優勝	中村分隊
二位	大野分隊
三位及特別賞	道圓分隊
	Y(ワイ)

お知らせ

二十歳になりました
八尾市消防音楽隊発足二十周年記念演奏会
3月13日(土)の午後2時から、プリズムホールで消防記念式典とともに記念演奏会が実施されます。ステージドリルやポピュラー音楽・民謡等多彩な演奏を予定しています。是非お立ち寄り下さい。 入場無料

編集後記

部会を通じて他の分団員の方々と知り合って、広報誌を発行する一つの目標に向かって共に作業しているときふと最初の部会風景を思い出します。顔と名前が一致しなくて覚える事が精一杯で在ったのに、今は皆の性格までもがだんだん分かって来た様に思います。今私達は大きな役目を引き受けてテンテコ舞ですが、その意見をまとめるながら、この三号を発刊しました。

広報部会名簿

委員長	北山泰次
副委員長	久田弘義
本部分団	黒川博昭
第一分団	緒方保己
第二分団	橋本靖司
第三分団	川端良均
第四分団	嶋山雅一
第五分団	杉田雅弘
第六分団	桐山道浩
第七分団	清野康和
第八分団	植水正男
第九分団	植田重治
事務局	西口幸史

消防団年間行事予定

五月	消防団員任命式 団初任科・幹部教養 恩智川水防訓練 地域防災総合演習
六月	機関員講習 大阪の消防大賞 地区支部総合訓練 市内消防まつり警備
八月	大阪府消防大会 秋の火災予防運動 消防団員健康診断 消防フェスティバル
十一月	消防団厚生事業 歳末特別警戒 消防出初式 防災ボランティア訓練
十二月	文化財訓練 恩智川河川踏査 春の火災予防運動 消防記念式典 大阪府消防表彰式